莫誇也、妙觸宣明、浴室澣濯、其功不可言而已、后怪喜乃建温室、令貴賤取浴、后又誓曰、我親去千人垢、君臣憚之、后壯志不可沮也、既而竟九百九十九人、最後有一人、偏體疥癩、臭氣充室、后難去垢、又自思而言、今滿千數、豈避之哉、忍而揩背、病人言、我受惡病患此瘡者久、適有良醫教曰、使人吸膿必得除愈、而世上無深悲者、故我沈痼至于此、今后行無遮悲濟、又孔貴之、願后有意乎、后不得已吸瘡吐膿、自頂至踵皆遍、后語病人曰、我吮汝瘡、慎勿語人、于時病人放大光明告曰、后去阿閦佛垢、又慎勿語人、后驚而視之、妙相端嚴、光耀馥郁、忽然不見、后驚喜無量、就其地構伽藍、號阿閦寺、

〔閑田次筆二〕光明皇后、貴賤をいはず、千人に施浴し、御みづから垢穢を洗淨したまへりし其終に、癩疾のものいたりしを、なほいとはず、さきぐのごとくあつかひ給へりしかば、忽ち阿閦如來と現れましゝといふこと傳記に見え、今も奈良坂に阿閦寺の名ごりをとゞめ、癩疾のもの、長屋を建て住り、彼故事によりてや、施浴の勸進するよしの札も見ゆ、その奇瑞の虛實は論せず、凡善を修するも、功德を行ふも、その人の相應有べし、皇后の善は皇后の善あり、此后の御所爲はなはだしからずや、御女孝謙天皇の道鏡を寵したまひしも、此人もと護持の僧にてありしより起り、畢竟閨門の法度正しからざるに基するなり、略〇下

〔源平盛衰記四十四〕平家虜都入附癩人法師口說言幷戒賢論師事

其中ニ鳥羽里ノ北、造道ノ南ノ末ニ、溝ヲ隔、白帶ニテ頭ヲカラゲ、柿ノキモノニ中ユイテ、朽杖ナド突テ、十餘人別ニ並居タリ、乞者ノ癩人法師共也、年闌タル癩人ノ、鼻聲ニテ語ヲ聞バ、人ノ情ヲ不知、法ヲ亂ルヲバ、惡キ者トテ不敵癩ト申タリ、去共此病人達ノ中ニモ、不敵タルモアリ、不敵ナラザルモアリ、又直人ノ中ニモ、善者モ不善者モコモ〳〵也、世ノ習人ノ癖也、此法師加樣ノ病ヲ受タル事、此七八年也、當初事ノ緣有テ、文章博士殿ニ候シ時、田舍侍ニ小文ヲ教ラレシヲ聞バ、世ハ人ノ持ニアラズ、道理ノ持也ト云事ヲヨマレキ、又清水寺ニ詣テ通夜シタリシ時、參堂ノ僧ノ